



12月度の御書

「四条金吾殿御返事」 (不可惜所領の事)

御文

一生はゆめの上、明日を
ごせず。いかなる乞食には
なるとも、法華經にきずを
つけ給うべからず。

(御書新版1583ページ・御書全集1163ページ)

意味

一生は夢の上のような
出来事のようにであり、
明日のことも分からない。
どんなにつらい目にあつて
も、法華經にきずをつけ
てはならない。

あきらめない心から希望は生まれる

みんな、こんにちは！ボクはライオン博士のキング君。

今回は、四条金吾に送られた御書を学ぶよ。四条金吾は、日蓮大聖人の弟子の中でもひととき信心が強く、たのもしーリーダーだったんだ。

「大聖人のためなら何があっても負けない！」。そんな強い心、“負けじ魂”をもっていたんだ。まるで「Be Brave! 負けない心を燃やして♪」と歌っているボクたちみたいだね！

ところがある日、法華經の信心を否定する人たちが、金吾をわなにかけて悪者にしようとした。「金吾は悪いことをした」と、ウソのうわさを流したんだ。

そのうわさを、主君（仕事上のえらい人）は信じてしまった。そして金吾に「信心をやめないなら出ていけ！」と言ったんだ。仕事をなくし、家も出ていかなければならないなんて……。金吾も家族も、とても不安だっただろうな。

だけど、四条金吾は「それでも絶対に信心をやめない！」と誓ったんだ。大聖人は、金吾の負けない心をとっても喜ばれたんだよ。

明日、何が起きるかなんて、だれにも分からない。で

も、どんなに大変なことがあっても、ボクたちには南無妙法蓮華經のお題目がある。お題目を唱えれば、“心”という宝物をかがやかせることができる。それは、お金のように、使ったら消えてしまうものではなく、永遠にくずれることはない。お題目を唱えている人は、強く美しい心で、必ず幸せになれるんだ。

大聖人は金吾に「どんな時も、法華經にきずをつけてはならない」と言われているよ。「法華經にきずをつける」って、どういうことかな？

それは自分の弱い心に負けてしまうこと、苦しい環境の前に心を閉ざしてしまうことだよ。反対に「負けない心」を燃やし続けることが「法華經を大切にすること」だよ。

信心をつらぬいた金吾は、その後、主君から信らいを取りもどし、以前よりも「金吾はすごい人だ」と、たよりにされるようになったんだ！

池田先生は「希望は『あきらめない心』から生まれる」と語られたよ。無敵のお題目で「負けない心」を引き出そう！そしてボクたちの勝利の姿で、信心のすごさを証明してみせようよ！